

高等学校における 「通級による指導」の実践

令和5年11月10日（金）

山梨県立ひばりが丘高等学校

渡辺 孝太郎

山梨県立
ひばりが丘高等学校
HIBARIGAOKA HIGH SCHOOL



高等学校における 「通級による指導」の実践

1. 本校の概要
2. 「通級による指導」の概要
3. まとめ



中北地域

峡東地域

- 全日制（普通科）
- 全日制（総合学科）
- 定時制

HP



<https://www.hibarih.kai.ed.jp/>



山梨県立
ひばりが丘高等学校
 HIBARIGAOKA HIGH SCHOOL

高校

登校頻度・1日の授業時間

の違い

全日制

決められた授業で毎日登校 約6時間
基本3年で卒業

定時制

選択した科目にもよるが毎日登校 約4時間
基本4年で卒業

※各学校の決まりで、学校内外の実績を単位認定することもでき、3年卒業も目指せる

通信制

課題提出
月に数回の登校（スクーリング）
選択した科目にもよるが3年で卒業可能

本校における主な支援の概要

特別支援教育の観点に基づいた指導の拡充

「自立活動」の指導
ソーシャルスキルトレーニングなど

環境設定

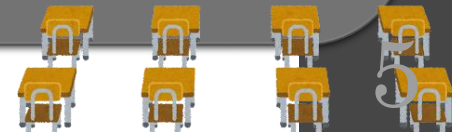
人間関係を考慮した座席・ペア
言葉かけ

「通級による指導」

休み時間・放課後

SHR・LHR
総合的な探究の時間
教科指導

面談・SC



ひばりが丘高校「通級による指導」の概要

山梨県教育委員会「高等学校における通級による指導」の研究指定校

本校の2年次以降の生徒が履修可能（自校通級）

※小中の通級のような、他の学校の生徒の指導（他校通級・巡回指導）ができない現状

学校設定科目【ライフスキル（LS）Ⅰ・Ⅱ】

ライフスキル

5・6校時の時間帯に開講

	時間	月	火	水	木	金	
昼間部	1	10:10~10:55	数学Ⅰ	簿記/マーケティング	情報処理	保健	世界史A
	2	11:00~11:45					
	3	12:45~13:30	ビジネス実務	体育	総合的な探究 LHR	数学Ⅰ	家庭基礎
	4	13:35~14:20					
	5	14:40~15:25	国語表現		科学と人間生活	数学活用	
	6	15:30~16:15					
夜間部	7	16:45~17:30					
	8	18:00~18:45					
	9	18:50~19:35					
	10	19:40~20:25					



個別に設定した目標が達成され、校内委員会で承認をされれば単位認定

これまでの通級履修生

令和2～5年度（4年間）
計15人

中学時在籍
支援学級・通級 4人
通常学級のみ 11人

高校から、初めて支援を
求めるケースが多い

令和5年度
計9人履修中



小中 不登校・別室登校の経験あり

忘れてしまう

総合教育センターで検査歴あり

自傷・他害行動

就学前から発達障害の診断

人間関係のトラブル

体調を崩しやすい

返答が少ない

うまく話せない

思ったことをすぐ言ってしまう

高校入学まで支援歴なし

学習支援よりも
高校入試を突破していることから

**生徒のニーズのほとんどは
卒業後の進路に関わる
人とのコミュニケーション
心理的安定**

「ライフスキルⅠ」

個別指導を中心とした **自己理解**

主に

心理的安定
人間関係の形成
コミュニケーション

に関する指導

実態に合わせた
個別の指導



座学



アングーマネジメント

ストレスマネジメント

スマホ・SNSのやりとり

家事

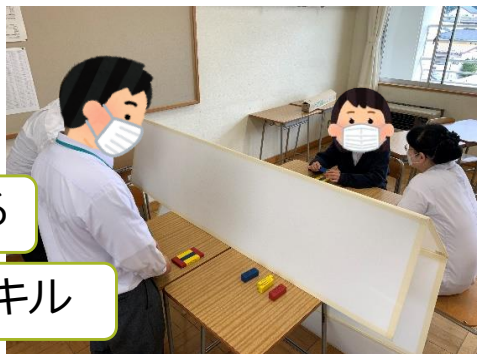
お金の管理

フリートーク

体験的な学習

他者の気持ちを考える

話すスキル+聴くスキル



働く体験（飲食店）

報告・連絡・相談



対処するスキル



インタビュー



語彙学習



小集団授業の実施も行う

日常生活への般化

集団参加の練習

他者との比較



「ライフスキルⅡ」

小集団指導を中心とした **協働**

ライフスキルⅠを深化させた指導

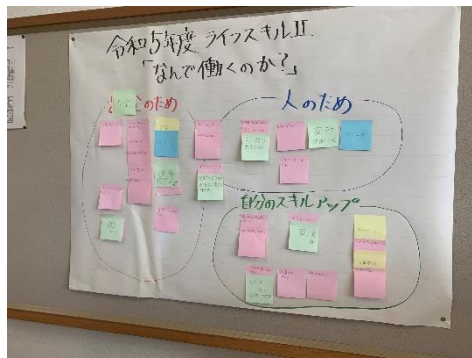
+

インターンシップ等による就労指導

集団参加
自発的な話し合い



ライフスキルⅠを深化させた指導



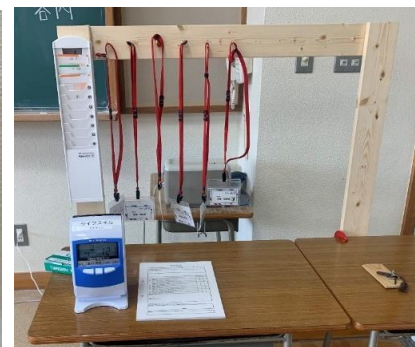
話し合い

決まり文句

行動を振り返る

作業学習

名札
勤怠管理練習



【1学期】
事務作業



校内掲示製作

【2学期】
模擬飲食店



生徒たちが主体的に
企画・準備・経営

連携



インターンシップの実施
学校関係者とは異なる第三者から評価をいただく

事前学習



事前挨拶



就業体験



事後学習



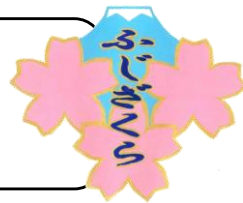
体験日誌
まとめ

お礼状



連携

ふじざくら支援学校との連携



訪問支援（センター的機能の活用）

- 実態の読み取り
- 指導・支援方法の助言



本校職員の 特別支援学校の見学研修

「生徒の関わり方」「ユニバーサルデザイン」「環境設定」
特別支援学校の先生方の生徒への関わり方を知ることができている



研究実践



授業内容

- 本校に在籍する生徒の実態から指導モデルの作成
- 自己評価シートの作成と活用
- **「指導モデルの指導実施」から
「個々のニーズを拾い上げ個々の指導」へ**

個別の教育支援計画作成

- 保護者や生徒への聞き取りのためのシートを作成

授業打ち合わせの実施

- 評価と次回指導内容に関する打ち合わせの実施と効率化

資質向上

- 特別支援教育の資質向上
特別支援学校のセンター的機能活用と学校見学研修
- **「通級による指導」に関わる校内研究会を本校職員全員で実施**



研究実践

令和2～4年 「一律指導モデルの作成と授業実施」

校内職員全員参加の
研究会の実施



研究会で多く出た意見

- ① 「ラポールの形成」
- ② 「ニーズを引き出すこと」
- ③ 「心理的安定に注目しこの環境の中で安心して授業ができる空間づくり」

令和5年 「個々のニーズを拾い上げ個々の指導」へ



授業実践

まとめ

成果

- ほとんどの履修者のニーズである内容（心理的安定・コミュニケーション）を授業計画（プログラム）を作ることができる
- 生徒の自己理解を深め、進路選択の手助けとなっている

課題

- 授業内容の大枠を基に個々のニーズを拾い上げ個々の指導
- インターンシップ先が限られている
(協力していただける企業の開拓・確保)

連携

- 保・幼⇔小⇔中⇔高 施設・学校間の引継ぎの大切さ
- 採用やインターンシップを受け入れてくださる企業
- 近隣高等学校の「通級による指導」に対するの理解

ご清聴ありがとうございました

高校における特別支援教育は、これから発展していくと思います。

参加されている皆様の御協力を

ぜひともよろしくお願いいたします。



山梨県立
ひばりが丘高等学校
HIBARIGAOKA HIGH SCHOOL